



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第11弾として、航空分野のうち建築系の業務内容を、航空局航空ネットワーク企画課近畿圏・中部圏空港政策室 村田専門官（入省7年目）より語っていただきました！



村田専門官（入省7年目）

1. 航空分野のうち建築系業務の国交省における役割を教えてください。

みなさんは「空港」と聞いてどんなものを思い浮かべるでしょうか。私は離発着する航空機、巨大な滑走路、多くの人が行き交うターミナルを思い浮かべますが、建築系職員としては、「空港の施設整備」がミッションとなっています。ただし、「施設」とひとことに言っても、航空機が飛行するための航空管制の精密機械、巨大な土木構造物である滑走路、そして人々が利用するターミナルビルと多岐にわたります。建築系職員においては、これらの大きな施設から小さな設備に至るまで、スケールを横断した業務に取り組むことが求められています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

我が国の国際競争力の強化、訪日外国人旅行者の更なる受け入れのために首都圏空港（羽田空港・成田空港）、関西空港、中部空港の機能強化に取り組んでいます。また、地方の拠点空港として那覇空港の第二滑走路が今年3月に供用開始したところです。そのほか、福岡空港においても滑走路増設事業を実施しており、引き続きの空港の機能強化に取り組んでいるところです。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

関西国際空港・伊丹空港・神戸空港の「関西3空港」と呼ばれる空港に関する業務を行っています。もともと、関西国際空港は民間会社が管理、伊丹空港は国が管理、神戸空港は自治体が管理する空港だったのですが、現在は関西エアポート株式会社によるコンセッション（運営権委託）運営が開始し、3空港が一体的に運営されています。関西3空港については運営権者だけではなく、地元自治体・経済団体等も協力しながら、空港と地域の共存・共栄、関西経済の発展を目指して最適活用に向けた検討を進めているところです。私の現在の業務においては、これらの検討が着実に進むよう関係者の方々と調整を行っているところです。



4. 苦勞する点や、やりがいについて教えてください。

プロジェクトを進めていくうえで、立場の異なるそれぞれの利害があり、それらを踏まえたうえで限られた時間の中で合意に至るプロセスは毎回大変な苦勞があります。そのプロセスは、世の中の注目を集めるものであっても、肅々とするものであっても共通のように感じます。私もまだ入省して日が浅いですが、自分の取り組んだことが現在や将来において、少しでも世の中の利益を最大化する、あるいは損失を最小化することに役立てば幸いです。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

「空港の施設整備」をテーマに業務紹介をさせていただきましたが、実際の業務は建設土木技術のみならず、法律・経済・経営などなど非常に幅広い業務に携わることができるのが大きな魅力であると考えています。様々な分野に興味と好奇心を持って仕事に取り組むと、世の中の役に立ち、また自分も楽しく仕事ができると思います。



関西空港航空写真



岩国空港ターミナルビル（空港ビルの間近から航空機が見られます！）